



※ 各議員の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ることで、一般質問の録画映像をご覧いただくことができます。

※ 小久保博史議長は職責上(議事整理権)、監査委員の水沼日出夫議員は申し合わせにより一般質問は行っていません。

(文責は、各質問者)

一般質問に26人が登壇

豊野方面路線バスを使いやすく



木下三枝子
議員



春日部駅東口から豊野方面路線バスを利用している高齢者にとって、優しい運行への改善、また春日部駅西口への発着を求めている豊野地域住民からの要望について、認識を伺います。

①増便や鉄道との連携により、待ち時間の少ないダイヤへの改善について②停留所の時刻表の文字が小さい、暗くなると見づらいことに対する改善について③行く先のアナウンスや表示が分かりづらいことへの改善について④停留所へのベンチの設置について、現状と仕様、座面の仕切りはなく、台数も増やして早期に設置することへの市の認識は。

○都巿整備部長

春日部駅西口発着について、は、当時の乗降調査によると、大変利用が少ない状況で、採算性が見込めない路線を復活させることは困難であると伺つており、市としても難しい

ものと考えています。①費用対効果などを考慮した上、現在のダイヤとし、鉄道との連携も、できる限り対応していると伺っています。②時刻表改正などのタイミングで、必要性を検討していくとのことです。③ルート表示は費用面からすぐの対応は難しく、また、分かりやすいアナウンスを心掛けていると伺っています。④利用者の利便性や安全性に配慮し、設置可能な場所に設置したいと考えています。

このほか

○認知症について気軽に相談できる春日部市を

○公用車のカーシェアリングについて



伊藤一洋
議員



昨今、環境負荷の低減や自動車保有台数削減の観点から、カーシェアリングが社会的に普及しています。公用車については、ゼロカーボンシティを実現するため、次世代自動車の導入台数を増やすとともに、運用を効率化して保有台数を減らすこと

○春日部市公共施設マネジメント基本計画の進捗について

とが重要です。埼玉県内では、入間市で12台のEV車をカーシェアリングしていること、また、所沢市とふじみ野市は、民間事業者が設置したカーシェアリング用のハイブリッド車1台を公用車としています。

ゼロカーボンシティの実現や、公用車の保有台数を削減していくためにも、今後カーシェアリングを導入していくことは、非常に有効であると思いますが、本市の考えをお伺いします。

○財務部長

公用車へのカーシェアリングの導入は、次世代自動車の導入による二酸化炭素排出量の削減と併せて、保有台数そのものの削減による取得コストや管理コストの削減にもつながることから、有効な方法であると認識しています。

今後は、カーシェアリングを導入している自治体や民間事業者へのヒアリングを行いながら、本市にとって効果的なカーシェアリングの導入方法について、調査研究していきたいと考えています。

このほか

○春日部市公共施設マネジメント基本計画の進捗について

農業政策について



山崎
進
議員



農業従事者の高齢化、担い手不足、また、ここにきて農業資材や肥料の高騰など、農業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。春日部市でも高齢化、担い手不足は深刻で農業離れが進んでいます。本市の農業経営体数は、平成22年には1568が、令和2年には957へと、10年間で611経営体減少しているようですが、日本の一次産業の農業が衰退することは、日本の食生活が、さらに輸入に頼ることになります。そうならないように、農業を守らなければなりません。



農業支援 (イメージ)

農業従事者の高齢化、担い手不足、また、ここにきて農業資材や肥料の高騰など、農業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。春日部市でも高齢化、担い手不足は深刻で農業離れが進んでいます。

○市長
支援策は、農業機械を導入などする者に対して、一定の要件の下、補助金があります。

○環境経済部長
業経営を適切に行えるか確認し、農地を取得・借り入れすることが条件となります。

春日部桐箪笥から つなげる姉妹都市へ



吉田
稔
議員



伝統的工芸品として国の指定を受けている「春日部桐箪笥」。桐たんすの組合員や団体の皆さんのが独自の活動の中で過去にパリで3回の展示会を開催しました。そこでパリと春日部の産業や文化が非常に似ていることが分かりました。①桐製品がとても人気。

②エッフェル塔の並木通りの街路樹は桐の木が植樹されている。③漆がなじみ深く愛されている。④たこが文化として根付いている。⑤クレヨンしんちゃんが大人気。

これだけ共通項の多いパリであれば、姉妹都市の可能性もあり得ると思いますが、以下について伺います。

①姉妹都市の要件

②パリとの姉妹都市の可能性

○市民生活部長

本市の姉妹都市の要件について、特段規定はありませんが、自治体の国際化を支援している一般財団法人自治体国

野が特定なものに限られていないことなどを挙げています。

協定の締結に当たっては、相手方との友好・親善的な交流や実務的な協力など、さまざまな交流の積み重ねが必要と考えます。まずは春日部桐箪笥組合をはじめとした民間団体と、パリ市の関連する民間団体との間の交流活動を注視していきます。

○いよいよオープン ハルカ
心から市民に寄り添つた
対応を! (特におくやみの
対応に 関 し て)



石川
友和
議員



ある方のご遺族のおくやみに関する手続きに同行した際にいろいろと感じた市役所の対応で、どれだけ遺族に対する精神的負担軽減策が行われているのか伺います。

○農業委員会事務局長
新規就農の条件は、農業委員会へ新規就農の申し出を行ない、當農計画を作成します。

やみカードに「死亡」という表記が多数ある。配慮が足りない気がするが認識について。

○市長
市体の要件として、両市長による提携書があること、交流分野が特定なものに限られていないことなどを挙げています。

○市民生活部長
で手続きが完了する、おくやみコーナーを既に設置している市の数について。
○市民生活部長
て、職員の横の連携を駆使する時が来たと思うが、市長の意気込みについて。
○市民生活部長
①ご遺族の心情に配慮したものとなるよう、書類の名称、記載項目の表記について、今後見直したいと考えています。
②令和6年5月23日時点で、県内40市の中14市が設置しています。

○市長
③ご遺族にとって、お亡くなりになつた方の手続きは、相当な精神的負担が伴うものであると再認識しました。これまで以上に、ご遺族の方が手続きを円滑に行なうことができるように、関係各課が十分に連携し、市民の皆さんに寄り添つた丁寧な対応となるよう取り組んでいきます。

また、おくやみコーナーに

については、他自治体の例を参考に、今後、調査研究を進めたいと思います。

ドッグランについて



中村
貴彰
議員



ドッグランは、犬と飼い主が楽しいひとときを過ごすための特別な場所であり、犬と社会性を育むための大切な場として、多くの人々に愛されています。本市の愛犬家の中でも、ペットを自由に、かつ、安全に遊ばせることができるドッグランへの期待が高まっています。設置要望の声を非常に多く頂いています。個人的に要望していた、内牧公園のテーマパーク化の実現に向けて、内牧公園にドッグランを設置していただきたいと思っていますし、庄和総合公園や、さらには県営春日部夢の森公園も一つの候補としてあるのではないかと思っています。

本市には、遊歩道や公園も多くあり、犬を飼う人にとって良い環境だと思いますが、もつと犬と触れ合える特別な場所として、ドッグランを公園に設置することについて、



ドッグラン (イメージ)

市長の考えを伺います。

○市長

設置には、近隣の方の理解が欠かせないなどの課題があると認識しています。しかし、動物愛護への関心が高まる中、飼い主の方が愛犬と触れ合い、共に楽しみ、飼い主の方同士の親交を深められる環境があることは望ましいと考えます。

今後は、既存公園などを中心に、適地の選出およびドッグラン設置を検討していきます。このほか

- 公園について
- 図書館について
- 農業支援について

入学式のあり方を考える



古沢
耕作
議員



今年の市立小・中学校での入学式において、「時間短縮」という理由で、ご来賓として招いた地域のかたがたのお名前を紹介しないケースがあり、それとは対照的に、市長のビデオメッセージが時間を確保して紹介されていたことに、私は違和感を抱きました。

ここでもたちは、矛盾に敏感です。

生きていく上で、あるべき「優先順位」を教える学校という場が、ややもすると、目の前に居る大切な人よりも、いわゆる“偉い人”への配慮を優先している、と誤解されるメッセージを送つてしまつたのではないかでしょうか。

この危機感を踏まえて伺います。

市長は、ご自身で発案されたビデオメッセージが、結果的に、市職員のかたがたの仕事や、入学式のやり方に、影響を及ぼしたという自覚はある

りますか。

教育長は、今回の学校での判断が、こどもたちへの誤ったメッセージになつたという認識はありますか。

○市長

今後も、こどもたちにとつてより良い方法で、祝意を伝えていきたいと考えています。

○教育長

こどもたちに間違つたメッセージを送つたという認識はありませんが、来賓紹介において、配慮が至らなかつたと感じられる点については、改めて、検討していきたいと考えています。

○都市整備部長

現在の進捗状況については、権利者で構成する「世話人会」により提案された、街区ごとで検討を進めており、街区ごとに低層棟と高層棟を設置し、事業化の検討をしているところです。

春日部市中央一丁目地区第一種市街地再開発事業について



河井
美久
議員



春日部市中央一丁目地区第一種市街地再開発事業は、春日部駅西口ロータリーに隣接した、広大な土地利用の再編を図る事業であることから、中心市街地の利便性や価値の向上を図る上で、鉄道の高架化や駅前広場リニューアルと一体的に検討する絶好の機会

だと思っています。

この地区の再開発事業は、市としても重要な位置付けであるとのことなので、これから先も引き続き、再開発事業が円滑に進むように、注視していく必要があると思います。

そこで、現在の事業の進捗状況と課題をお伺いします。

市においても定期的に関係権利者を対象とした「権利者の会」を開催し、再開発に関する情報共有の場を提供するなど、再開発事業が円滑に進捗するよう支援しているところです。

課題については2点あり、1点目は関係権利者の合意についてです。事業を円滑に進めていくためには、高い水準での合意形成を図ることが重要であると認識しています。

2点目は工事費の高騰です。今後においては、建設コストを重視した事業計画を検討する必要があると考えています。